

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100381		
法人名	ちば設備工業株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ 1階		
所在地	千歳市桂木3丁目1-2		
自己評価作成日	平成27年2月2日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171100381-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171100381-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年2月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり近隣は緑も多く、季節感を満喫し自然と触れ合う機会をつくつてます。家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切に、笑顔の多い生活が過ごせるように、その人が何をしたいかという気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っています。介護職員は運営理念「支えあい、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭におき、日々向上心をもって業務に従事し頑張っています。管理者は千歳市地域密着事業所連絡会 絆の会や、ちとせ介護医療連携の会に参加し、他事業所との交流を密に行い、利用者様が日常的に或いは重度化した場合においても、医療機関との連携がスムーズに図れるよう、病院、調剤薬局と連携しています。提携医療機関、提携介護施設と協定を結び、合同避難訓練を実施しています。大災害の場合に備えて他施設への避難を想定した避難訓練も実施しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して9年の当事業所は、2つの町内会や市内のグループホーム「絆の会」、「ちとせ介護医療連携の会」等、地域と強い連携体制が築かれている。災害対策の避難訓練は大規模災害を想定し、協力体制のある介護施設へ利用者全員が避難、地域住民も見守りの協力や介護タクシー、行政も参加の避難訓練をしている。災害時使用の利用者ネームプレートの裏には折りたたまれた基本シートが入られ、管理者、職員の介護支援の工夫は利用者への安全・安心の配慮がしてある。職員は外部研修参加や内部研修で学ぶ機会を得たり、ソーシャルワーカーの来所時話を聞いてもらう等、より良い介護に繋がる職員を育てる取り組みをしている。管理者はさらに介護医療関係や市内グループホームと災害時の連絡網を作成の協力体制を検討中である。重度化に向けては、利用者が恵まれた環境で過ごすクオリティーを求める、強い思いを持ち支援をしている。グループホームかつらぎは今後も地域の介護拠点として大いに期待できる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関や休憩室、皆が集う場所に掲示しており、ミーティングの時に唱和して、実践に向け取り組んでいます。	理念は、管理者、職員全員で話し合い作り上げた。恵まれた環境で仕事や生活を楽しむ豊かな人生を、と職員の想いが込められた理念は、日常生活の支援で管理者と職員は共有し、地域密着型サービスの理念として確立している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	桂木町内や民生委員さんの書類作りをお手伝いさせていただいたり町内会館の清掃等に参加しています。また、近隣介護事業所の行事に参加したり、千歳市納涼盆踊りなど市の催しにグループホームの団体で参加しています。	町内会の清掃や行事には積極的に参加し、町内会、近隣の協力医療機関や介護老人保健施設、行政と連携し、利用者の生活を支えている。事業所の歌会に地域住民の参加を得て交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流の際や、運営推進会議を通じて認知症の方への理解や支援の方法を深めています。運営推進会議において地域包括支援センターに繋ぐケースもありました。住民学習会にも参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い日常の活動報告をしています。参加されている町内会役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。	利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、地区民児協会長、副会長と多くの出席の下、利用者の状況やホーム活動報告を話し合っ、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。出席者から地域の情報を得て、地域とさらに密な関係が出来ている。議事録は家族にも送られている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連携をすることはもとより、市民後見人の育成のため、千歳市が主催する市民後見人養成講習会の現場実習の受け入れを行い、実状をお伝えしております。その他、介護分野人材育成支援事業の受託もしています。	事業所からの依頼協力や、市からの要請で市民後見人養成講習の協力、商業労働課の介護分野人材育成支援の研修の受け入れ等、親密な関係を築き情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠を行わない事も含み職員全員が身体拘束を行わないケアを実践しています。また、職員ミーティングの際やその都度、身体拘束について確認し合っています。	行政や地域密着型サービスの団体「絆の会」「ちとせの介護医療連携の会」の外部研修やミーティングで話し合い、職員全員が身体拘束がもたらす弊害、廃止の意義を正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習会に参加して理解浸透に努めています。※平成27年2月24日 高齢者の権利擁護を考える集いに参加予定		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様もいますし、現在手続き中の方もいらっしゃいます。千歳市の市民後見人養成講習にも協力しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に重要事項などの説明を十分行い、理解、納得した上でサインして頂いています。契約後や契約内容の改定に関しての疑問等には随時説明して理解、納得を得れるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしています。日々の生活の中で行動・言動・表情によりその方の思いを汲み取る努力をしています。また、ご家族とは面会の際、個々にお話して近況等報告し相互理解に努めています。	利用者の意見、要望は日々のケアで対応し、家族の意見や要望は訪問時、管理者、職員は真摯に話を聞き、改善策等を話し合っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は日常的に受け入れ、管理者は日常的に職員個々とコミュニケーションをとるように努めています。また、必要事項は職員ミーティングの際に意見や提案を伺っています。	管理者は日々職員から意見や提案を聞き、職員もケアの相談をしやすい信頼関係が築かれている環境である。「ちとせの介護医療連携の会」の研修では若い介護者を育てる取り組みの「ケアカフェちとせ」の研修に参加し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働ける様に努めています。平成24年4月よりパート職員の昇給制度を導入。長期間勤務している職員を評価しています。また会議で話し合い、働きやすい環境作りを考え取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が法人内外の研修を受講出来るようにしています。地域密着型サービスの団体「絆の会」や「ちとせの介護医療連携の会」において、介護、医療、接遇マナー等の講師をお招きして介護事業所に勤める職員のスキルアップ研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	絆の会、ちとせの介護医療連携の会において毎月定例会を実施しています。最近ではちとせの介護医療連携の会や近隣の施設とケアカフェを実施し、交流の機会を設け、相互の意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいます。ちとせの介護医療連携の会では介護と医療の連携を模索しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より待機の方とは定期的に連絡をさせていただき、話を伺える機会を設けており、顔なじみの関係を作るように努めています。また、担当のCM、SWから情報をいただき、本人との関係づくりにいかしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望申請書(ADL・認知症症状・既往歴・生活歴・在宅歴・施設歴・ご家族の意向)にそって入居前にご家族の要望、意見を十分伝えて頂き、入居後は面会時やモニタリング等の際に、入居者様の日常生活の様子、身体的な事をお伝えして、相談しています。気軽に話して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人やご家族の思い、状態を確認して、必要なサービスに繋がる様に柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中から楽しみながら生活して頂ける様に、職員間で常に考え仕事をしています。重度化がすすむ中からも日常生活において「できること・できないこと」を話し合い、見極め、一方的ではなく共感する事が多い関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族の共有時間がより持てるように努めています。なかなか来ることができないご家族もいますので、職員が親身になり寄り添っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り、温泉入浴などの外出支援や遠くのご家族、兄弟、知人、友人に電話や手紙での連絡のやり取り、選挙の投票など繋がりを継続出来るように支援しています。	利用者の友人が来訪時や電話等、馴染みの関係を大切に考えて支援している。近隣の公園隣接のソバ屋に歩いて行ったり、温泉や家族からの依頼の選挙等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いの居室を行き来したり、スタッフを交えて会話や歌を唄ったり、食後、他の入居者様の食器の片付けをされたり、支えあって生活しながら、職員はその支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も遊びに来られる利用者様もいます。入院時はSWと密に情報交換しながらお見舞いに行っています。また、医療が必要になり退居された場合においても、必要に応じて支援させていただく旨をご家族に伝え、その時々で、対応しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報と入居希望申請書により、習慣、趣味等を把握し日々の関わりから、言葉、表情で本人の意向を汲み取り、カンファレンス等で検討しています。	思いや意向は契約の際や日々の支援の中で利用者、家族から細かに思いを聞き、希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望申請書、ご家族、ご本人からの情報、認定時の市役所からの情報、また日々の会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探り、より良いケアのために役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身の状態を見極め、できる事、できそうな事を支援しています。見守りし待つ事、一緒に喜ぶ事、感謝する事も職員は心得ており個人記録、送りで日々の情報の共有をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見や思いなどを聞ける場合は、ご本人に聞き取りしています。ご家族の意向も聞き取り、モニタリング・カンファレンス・ミーティングで職員の見解のもと、介護計画を作成しています。	介護計画はモニタリングやケア会議、利用者、家族からの希望の介護内容を話し合い、見直しをしながら介護計画を作成している。モニタリングはプランに基づき毎日検討、検証され、介護計画に即したケアの実施になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気づき等、日常の様子をプランに沿って記入し各勤務帯で申し送りし情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診対応、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ、薬局との連携、クリーニング委託、訪問理美容、新聞個人購読、ヤクルト、福祉用具業者、訪問販売(食品)などの業者が出入りし柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	千歳市納涼盆踊りに参加したり、町内会館の清掃に参加したり、シルバー人材センターに宛名書きを依頼したりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご相談の上、往診を受けています。その他、かかりつけ医に定期受診しています。著変がある際はご家族と相談の上、情報提供書(共通情報書式)を持参し受診、緊急時は管理者が対応し支援しています。歯科往診・マッサージの訪問もあります。	かかりつけ医は利用者、家族の希望を尊重している。薬局とは薬の配達や薬の管理、情報の協力体制を築き、協力医の往診、歯科往診や利用者は適切な医療受診を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の健康チェックを受けております。また、入居者様に特変があった場合は、都度、訪問看護ステーションや係りつけ病院へ相談できる体制を整備し、適切な受診対応を心がけております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、ご家族・医療機関の相談員と連携しながら、早期退院に向けて話し合いを行っています。また、管理者は「ちとせの介護医療連携の会」の理事を務めており、率先的に包括的な関係作りを実践しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明します。また、重度化した場合でも協力機関と連携しながら、訪問看護サービスを活用し、GHでの生活を支援しています。また、地域関係者と介護医療連携、地域包括ケアの推進に努めています。	契約時に「重度化した場合の対応指針」に基づき、利用者、家族に説明して同意を得ている。「生活の質を高くしていく」との強い思いの管理者の下、協力医療機関や訪問介護サービスと様々な地域連携が取れ、チーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時、緊急時のことを決めた表があり職員がいつでも見れる場所に掲示しています。救急救命講習を受け介護事故と急変時の発生に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成26年8月、医療機関、近隣施設、推進会議役員さんと協働し、大災害を想定した避難訓練を実施し、グループホームから特養に全員避難しました。その中から得た成果をさらに良くするため、現在は千歳市内の介護医療連携の中で災害時の協定を検討中です。	消防署職員の立会いの下、災害時の協定が結ばれている近隣の施設に全員が避難、町内会の住民とも災害時の見守り等、協力体制を築いている。今後は絆の会や介護医療関係機関と災害時連絡網を築き、さらに様々な災害対策の取り組みを検討している。	災害時の訓練では消防署職員や地域住民の協力の下、利用者全員が避難訓練を実施しているが、さらに様々な災害を想定し、管理者が検討している介護医療関係や市内グループホームとの連絡網を作成し、より強い災害時対策の構築を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者様のプライバシー保護を重視して気分を損ねる言葉かけは行わない様、十分配慮し対応しています。また、バリテーション療法を参考に共感して接すること(同調)を率先しています。	職員は人格の損ねない言葉かけに心がけ、日々対応している。外部研修や内部研修を行い、プライバシーを傷つけることのないケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ、希望や願いを引き出せる様に取り組んでいます。表現が上手く出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さない様に自己決定できるよう働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせられるように、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し、出来る限り個々の希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選び、身支度はご本人が自由に選べるようにしています。お化粧・アクセサリー・ヘアスタイルは個々に合わせて支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(配膳・後片付け)などを手伝って頂いたり力を発揮出来る場を設ける様に工夫をしています。日常の中で何気なく何が食べたいか聞き取り、可能な限り献立に反映しています。	利用者の誕生日は希望に沿った外食の支援をしている。食材は地域の商店に買い物に行き、下ごしらいや配膳など出来る事を利用者、職員と一緒にいき、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を工夫して提供しています。水分が難しい入居者様に対しては甘味料などを使い対応しています。また、使用しやすい食器選びを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に応じ継続的に支援しています。また、就寝前に義歯を外していただき清潔を保持しています。異変のあるときは歯科医に気軽に相談できる体制もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っています。オムツの使用はご本人の状態に合わせて控えており、極力トイレで排泄できるように取り組んでいます。	オムツの排泄を極力抑えるように職員全員で心がけている。尿意のパターンを把握、トイレへのさりげない誘導に取り組み、自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のある物を取り入れたり、乳製品、オリゴ糖を入れたり工夫している。水分は確認表を利用しています。入居者様の状態に合わせて、体操や歩行運動を実施しています。便秘傾向と強い利用者様は医師と相談しながら下剤で調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけし、意思確認し、入居者様のその日の気分や状況により行っています。入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。	入浴は日中、夜間と利用者の希望の時間帯で支援をしている。入浴中は職員とお喋りをして入浴が楽しくなるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じて休息しています。就寝時間や起床はご本人のリズムに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や服薬後の変化の確認に努めています。また、入居者様に変化があった場合は医療機関へ相談できる体制を構築し、調剤薬局、訪問看護ステーション、医療機関の相談員へ、都度ご相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、テレビ鑑賞、音楽鑑賞、宗教など個々にあった楽しみが出来るよう支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や介護タクシーと協力し利用者様の気分や希望に応じて外出できるように努めています。希望により近隣のスーパーに出かけられるように支援して、季節ごとに行事計画を立てながら、出かける機会を作っています。	日常的な外出は近隣の公園に散歩に行き、美容室、買い物は家族や介護タクシーを利用して外出を支援している。介護タクシーのドライバーとは協力関係が出来ているので利用者、家族の安心に繋がっている。市発行のバス券を利用での外部交流の支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはご家族の了解を得て、小額の所持金を持っていただいています。買い物の支払いもしています。事業所で管理している方でも外出時はご自分で支払うように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いています。一連動作、作業ができない部分はお手伝いさせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一つ一つの窓が大きく日差しが十分に入り、明るく、暖かくゆったりしたりリビングでくつろげます。生活音にも気を配り食事中は音楽を流しています。季節に合わせた飾り物などを飾っています。近隣は自然が多く季節感があり、外出時は季節の訪れを感じることができます。	共用空間は広く、明るく利用者は心地良く過ごしている。雛壇飾りが季節を感じさせ、利用者の手づくりの作品が飾られ、和やかな雰囲気づくりがされている。室温、湿度や食事中の音楽にも心地良く過ごせる配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士がソファで談話したり、テレビ鑑賞したり、食卓テーブルにて塗り絵、折り紙、パズル等されり、廊下歩行運動をされている方等、個々に共用空間で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して理解を得ながら、使い慣れた物を持参して頂き、安心して心地よく過ごせるように努めています。	居室には馴染んできた家具や日常品の小物が置かれ、家族の写真も貼られて居心地の良い配慮、工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しています。見やすい時計、日めくりカレンダー、トイレマーク等、必要に合わせて環境を整備し、安全に自立した生活が出来るように工夫しています。		